<table>
<tr><td colspan="6">会　　議　　録</td></tr>
<tr><td colspan="2">令和４年度第２回
生活支援事業協議体</td><td>日
時</td><td>令和４年９月２７日（火）
１４時００分～１６時００分</td><td>場
所</td><td>市役所第２庁舎
８０１会議室</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="5">小金井市福祉保健部介護福祉課</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出
席
者</td><td>委　員</td><td colspan="4">高良委員長（法政大学）
石塚委員（社会福祉協議会）
小島委員（社会福祉協議会）
出川委員（介護事業者連絡会）
尾崎委員（民生委員児童委員協議会）
武田委員（地域貢献活動をする者）
村越委員（町会・自治会）
第２層コーディネーター
　松村氏（小金井きた地域包括支援センター）
　金子氏（小金井ひがし地域包括支援センター）
　吉田氏（小金井みなみ地域包括支援センター）
　杉山氏（小金井にし地域包括支援センター）</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="4">第１層コーディネーター
　菊地原氏（小金井市　介護福祉課）
平岡氏、田村氏、木津氏（介護福祉課）</td></tr>
<tr><td colspan="2">傍聴の可否</td><td colspan="2">◎可　・　一部不可　・　不可</td><td>傍聴者数</td><td>３人</td></tr>
<tr><td colspan="3">傍聴不可・一部不可の場合の理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="6">次　　第
１　開会
２　議題
（１）報告事項
①　前回協議体からの進捗等
②　令和４年度４月から７月分生活支援連絡会報告
③　令和４年度４月から７月分生活支援コーディネーター活動報告
④　令和４年度各地域包括支援センター活動報告
⑤　課題解決力共有化プログラムの実施について
⑥　応援マップの作製について
３　検討事項
令和４年１月から６月までの個別課題抽出中間報告を受けての個別課題について
４　その他
次回協議体の開催予定
資料について
５　閉会</td></tr>
<tr><td colspan="6">１　開会
委員長の挨拶、高齢福祉担当課長の挨拶、介護事業者連絡会の委員の自己紹介
事務連絡及び民間の地域資源「まごころサポート」の紹介

２　議題</td></tr>
</table>

（１）報告事項
　①　前回協議体からの進捗等
　②　令和４年度４月から７月分生活支援連絡会報告
　③　令和４年度４月から７月分生活支援コーディネーター活動報告
　④　令和４年度各地域包括支援センター活動報告
　⑤　課題解決力共有化プログラムの実施について
　⑥　応援マップの作製について

（１）報告事項
　①　前回協議体からの進捗等
（事務局）
詳細は資料１のとおり。
（高良委員長）
何か質問や意見はあるか。
スマホに関して定期的に相談できる場所ができたのは非常に良い。相談を受ける方の人材は大丈夫か。
（事務局）
東京都から全て派遣する。
（高良委員長）
東京都の事業を活用しているということか。
東京ホームタウンプロジェクト等については、後ほど説明をしてもらえればと思う。

　②　令和４年度４月から７月分生活支援連絡会報告
（事務局）
生活支援連絡会報告について詳細は資料２のとおり
（高良委員長）
この連絡会について、いつも参加していない方々から何か質問等があればお願いしたい。生活支援事業が機能しているのは連絡会が継続的に行われていることが鍵で、実際に協議体で話したことが今後の活動につながり、課題として見えていることを次の協議体で話し合いができるという良い相互作用ができている。

　③　令和４年度４月から７月分生活支援コーディネーター活動報告
（事務局）
活動報告については毎月の連絡会で情報共有を行った。
（高良委員長）
これはこの後の地域包括支援センターの活動報告にも絡んでくると思うが、何かそれぞれのところから補足説明があれば、お願いしたい。

　④　令和４年度各地域包括支援センター活動報告
（高良委員長）
各生活支援コーディネーターから報告をいただきたい。ひがし包括支援センターから報告をお願いする。
（金子氏）

コロナ禍で積極的な訪問は自粛した。活動状況の把握及び活動支援を行った。
新規サロンを立ち上げた直後にコロナウィルス感染症が流行したため、活動を停止していた団体の状況確認を適宜行った。たまたま活動していた団体に突撃訪問をし代表の方から活動の様子や課題を伺うことができた。
また約３０年間活動を継続している団体では、支援者を介入させることなくリーダー交替が行えた。結果的にグループ全体の若返りや良い循環を図れていると、メンバーの方や公民館職員より情報をもらっている。
今後も各団体に合った活動支援を行っていきたい。
また情報発信について、ひがし包括版の情報誌を作成し、自治会、町会、民生委員、医療機関に向けて配付した。また当施設の掲示板前に資料を配架していたが、情報誌を２種類の形態に修正し、新たな配置方法で配架したところ、地域の多くの方に手に取ってもらえた。
地域活動では、道草市開催に当たり実行委員が立ち上がり、商店会の店主が中心になって活動を展開した。多様な方々と活動を通じてさらなる繋がりを作っていけそうだと思っている。本年度の道草市はコロナ禍で中止になったが、今後の活動を楽しみに、地域課題の抽出を行っていきたい。
（高良委員長）
何か質問や意見等はないか。
コロナ禍という状況においても継続的な活動支援をしっかりしていると感じる。
情報誌等の配架方法について変えたら、より多くの方たちに手に取ってもらえたことは、何が要因だったと考えられるのか。
（金子氏）
今までは不透明なレターケースに入れていたが、透明のレターケースに変えて、かつ掲示板もプランターを置いて見栄えを良くした。その他にも包括から発信している情報として、家族会やカフェの案内と一緒に配架することでより目につく形に設置し直した。割と部数がはけているので、多くの方に読んでいただけていると感じている。
（高良委員長）
ちょっとした変化で手に取ってみようという違いが出てくる。この辺りは皆様もいろいろな工夫をしていると思う。
また居場所等のリーダー交替については前回の第１回でも話題になったが、なかなか難しい状況の中で、３０年間続けている活動団体がサポートなく自然とできたことがすばらしい。うまくいった要因は何か。
（金子氏）
公民館職員と共有しているところでは、団体の中で主になる方が人格者でありその方が健在でうまい采配を振るってうまく牽引してくれたために、世代交代が出来たと考える。今後その方が采配を振るえなくなったらと考えると、危惧するところではある。そのときはサポートをしていきたい。
（高良委員長）
次、にし地域包括支援センターに報告をお願いしたい。
（杉山氏）
上半期の活動報告について、主に２点報告する。
まず１つ目は、コロナ禍で人とのつながりを絶やさないというもの。その中で現在、サロンの新規立ち上げ支援を行っている。きっかけは５月に通いの活動場所の状

況を把握している中で、本町住宅の住民を主体に活動している老人クラブの会長からサロン立ち上げ等の相談があった。本町住宅では数年前から自治会が自然消滅していた。建物の老朽化で一部の建替工事が始まり、集会室が使用できなくなったことや、コロナの感染拡大も重なり、特に独り暮らしの方の閉じ籠もりがすごく心配になってきたなどの相談であった。

また、集会室が畳の和室で、足腰の悪い高齢者が使用するには環境がよくないという相談もあった。合わせて管轄の住宅供給公社ＪＫＫスマイルアシスタントへ相談したところ、迅速に対応してくれた。７月下旬にＪＫＫスマイルアシスタントの担当者と住民と社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターも含め２層協議体を開催することが出来た。話し合いを何回か重ね、先日９月２０日にサロン体験会を開催した。また、今後の開催について代表となる方が見つからなく、しばらくは包括支援センターで開催の支援を伴走していく必要があると考える。

次に２点目が住民主体のスマホ勉強会の立ち上げ相談支援を行った。都営アパート本町４丁目の集会室で開催している。

スマホ勉強会の講師はシニア情報生活アドバイザーをしている市民で、５月に無料体験会を開催した。さくら体操に参加している方を中心に、５名の方が参加することになった。スマホ勉強会の個別対応の支援をしながら様子を見学したところ、スマホの機種により操作方法や、参加者によって操作レベルが全く異なると実感した。６月から毎月定期開催している。講師が社協のふれあいいきいきサロン事業助成の交付申請手続をし、現在はサロン登録して活動している。引き続き経過を見ていきたい。

（高良委員長）

社協の地域福祉コーディネーターが関連しているということだが、何か補足があるか。

（小島委員）

今は参加している感じだが、今後お役に立てることがあれば関わっていきたい。

（杉山氏）

相談いただいた本町住宅の老人クラブの会長も高齢で、包括支援センターに手伝ってほしいという気持ちがあるので、本町住宅の元自治会長と一緒に自主活動につなげられるよう支援していきたい。

（高良委員長）

包括の方に支援をしてもらうのはとてもよいことだと思う。申請などの事務的なことや、継続的な活動に関して中核になる方がいたほうがいい。前回も中核になる方が複数いればよいという話もあったが、住民の方だけで活動することはなかなか大変だと思われる。

次に、みなみ地域包括支援センターに報告をお願いしたい。

（吉田氏）

３つの課題について報告する。

地域の情報把握と情報共有、顔の見える関係づくりについて地域に働きかけている。具体的な取組を幾つか報告する。

みなみ圏域で特に相談件数が多い２つの集合住宅への関わりを通して地域の実態把握を行っている。その１つである前原坂沿いのスカイコーポラスは、昨年の立ち上げに関わったシニアライフ専門委員会で、高齢の住民が身近な課題の学習会を開催し、顔の見える関係をつくって支え合いを目指している。包括も継続的に参加し、ニーズ把握と住民や理事会との関係づくりを行っている。

もう一つが貫井住宅自治会だが、コロナ禍以降にサロンやさくら体操の中止など、活動の停滞が続いているなかで包括主導で６月２３日に協議会を開催した。この協議会には光明第二保育園や社協などの地域の関係機関も参加している。７月２５日には保育園と団地の高齢者とのオンライン交流会を開催した。

コロナ禍に加え、高齢化する自治会、住民理事会役員等の担い手不足もあり集会場を使い包括も連携して活動ＰＲや相談会開催を自治会に提案している。

また通いの場の活動支援について、前年度末に圏域内の４つのサロンでリーダーミーティングを行った。今年度から四半期ごとの定期的に２層協議体としてサロンリーダー連絡会を行うことになった。第１回は６月２９日にサロン活動の課題をテーマにして行い、次回はサロンに参加する高齢者の困りごとをテーマに開催する予定。横のつながりがサロンリーダーの活気づくりにも役立っている。

情報発信として４月９日、７月２日に貫井南けやき公園で行われた地域イベントの道草市へ参加し、みまもりあいアプリを利用した認知症行方不明者の捜索模擬訓練や包括の周知を行った。次回１０月１日に道草市へ参加を予定している。

その他、包括からの情報発信として隔月で２，０００部発行している包括ニュースの配布や、自治会へ敬老記念品を届ける際の包括周知ポストカードの配付依頼などを行っている。

昨年度から取り組み始めたＬＩＮＥでの情報発信は、包括からの案内にとどまらず、市の介護予防情報、地域イベント、小金井警察署からの防犯情報などの発信を行っており、高齢者本人ばかりではなく、遠方に住む御家族、ケアマネージャーなどにも登録いただき、高齢者等とのコミュニケーションの活用ツールにしてもらいたい。現在、ＬＩＮＥ登録者数が９３名を数えており、夢の３桁台の登録となればと考える。

（高良委員長）

いろいろな方がＬＩＮＥ登録をしていると思うが、高齢者の方も包括のＬＩＮＥを個別に登録しているのか。

（吉田氏）

発行している包括ニュースにもＬＩＮＥ活動を始めたという案内を掲載して、それを見た方がそこからＱＲコードを読み取り参加する場合もある。

（高良委員長）

９３人まで登録数が増えたのは、それだけ周知も進んでいる気がする。このＬＩＮＥを使いこなせる人たちが随分増えてきたのは、この何年間かスマホ入門講座等を実施してきた成果なのだと思う。何か質問等があるか。

サロンリーダーの連絡会で、武田委員はＬＩＮＥ登録をしているのか。

（武田委員）

いえ、こちらのＬＩＮＥには参加していない。

（高良委員長）

サロンリーダーの連絡会で他のサロンの方たち同士での集まり、このようなＬＩＮＥの必要性についてどのように考えるか。

（武田委員）

情報共有はとても参考になる。それぞれ活動の形は違うが、何か共通して考えていけることがあればと思う。

（高良委員長）

特にコロナ禍で、いろいろな困難がある状況の中、他の活動をしている方と意思疎

通をしながら情報共有して、課題に対してお互いの知恵を出し合っていくことは、やる意義がとても高い。
　あと１つ聞きたいのは、保育園とオンラインでどのように交流したのか伺いたい。
（吉田氏）
　まずはＺｏｏｍを使って保育園の園児たちと団地に住む高齢者の集まる集会所をつなぎ、Ｚｏｏｍで大画面に写るようにした。最初は園児の歌や踊りを披露し、その後、子供たちのなぞなぞを行った。
（高良委員長）
　オンラインとはいえ、インタラクティブで、それは誰のアイデアなのか。
（吉田氏）
　保育園の先生方のアイデアで、グループ内の保育園同士でオンライン交流をしていることや、オンラインでつながる高齢者はいつもお散歩に行く貫井住宅の中の公園で以前から会っていたこともあり、そういう関係性のもとで開催にこぎつけた。
（高良委員長）
　ぜひ他のところでも機会があればやってほしい。現在のコロナ禍の状況はそう簡単には終わらないし、インタラクティブにできる例として、とてもいい参考になると思う。では、最後にきた包括支援センターの報告をお願いしたい。
（松村氏）
　きた包括への相談件数も大変増えて、自分の担当件数も２割増しになったが、そういう中でも計画どおりの活動がほぼできた。
　その中から２点報告する。
　まず応援マップ作成のための情報収集に関して、公民館活動を中心に新たに２０件以上のグループを発掘し、掲載の了解をもらった。そこで出会った方と公民館を中心にシニア世代、子供世代、それぞれを対象にした講座を企画しようと相談している。さらにコミュニティースクール構想に関して今後包括が関われるようになることで、シニア世代と子育て世代が支え合うような取組について意見交換するといったことを通して包括の認知度をシニア世代、子供世代それぞれに高めていければ、急に親のことなどで困りごとが発生した際、包括にアクセスしやすくなると考えている。
　もう一つは梶野町ないまぜの会について、もともと月１回情報交換を中心に行っていた交流会に２層協議体の機能を持たせることができた。１０月末の梶野公園まつりにこの会主催で多世代を対象としたみまもりあいアプリの普及イベントの企画を包括から相談した。その準備のために今年４月から２層協議体として位置づけたいと提案し了解をもらった。その具体的な成果については紙で配付している。
　資料１点目は、デイサービスの利用者による清掃活動と民生委員による地域のおしゃべり会、薬局のミニ講座を合体させた企画のチラシ。デイサービス利用者にとっては地域の方との交流の機会になり、地域の方にはデイサービスについて知る機会でもあった。民生委員にとっては１人で行う会の運営の負担の軽減につながった。
　２点目はデイサービス利用者による仕事の様子を写したもの。デイサービスでの機能訓練の時間にお仕着せの趣味活動ではなく、座ってできる仕事で地域の役に立つ仕事を提供できないかとデイサービス管理者から相談があり、心当たりを今も探している。現状唯一つながった仕事として、みなみ包括の吉田委員の協力で提供いただいたみなみ包括ニュースのポスティング作業がある。
　そして３点目が包括主催の認知症カフェのチラシ。その認知症カフェのチラシでは梶野公園まつりのPRも兼ねて、ないまぜの会のメンバーの防災士によるシニア向け防

災講座を企画したが、ここにはＮＨＫ立川局の事業担当者も招いて、ＮＨＫ防災アプリのＰＲの機会を提供した。
　ＮＨＫには梶野公園まつりへの協力依頼と取材依頼を行い、結果的にどーもくんイベント参加者への景品としてのグッズの提供と当日のイベント実施支援として事業担当者１名の派遣について了解をもらった。取材を依頼したのは、忙しいなか地域のために頑張っている現役世代の活躍の場を広げられるよう、包括としても支援できればと考えたこと。また、メディアで取り上げられることで地域の方により広く梶野公園まつりについて知っていただきたいとの思いもある。
　梶野町ないまぜの会はもともと情報交換の会であったが、話し合い、実行に移せる場に成長している。既に他の企画も同時進行中であり、梶野公園まつりがすでにゴールではない状態にまで協議体が育ってきている。これは包括から目指すべきゴールを押し付けるのではなく、参加者それぞれが取り組みたいと思うことを互いに共有し、意見交換し、実現に向けて協力するということを積み重ねてきたからこそと考えている。同様の活動を他の地域でもやっていきたいと考える。
（高良委員長）
　第２層協議体を地域の方々の力でやっていると感じた。行動に意図も持って行っているので成果が表れているのだと思う。
　それに他の包括と連携し横のつながりが出来ている事が重要だと思う。
　地域包括支援センターの方々はすばらしい活動を継続して着実に地域包括ケアシステムの構築に進んでいるのがよく分かる。引き続き進めてほしい。

　⑤　「課題解決力共有化プログラムの実施について」
（事務局）
（これまでの経過を説明。）東京ホームタウンプロジェクト課題解決力共有化プログラムの実施について報告する。
　７月２０日に支援が決まり、本格的に動くこととなった。このプログラムは課題解決のために２つの伴走支援があり、１つは啓発パンフレットの作成支援、あと２つ目は啓発パンフレットを使っての啓発支援を同時進行で受けることになった。
　全体の流れは大まかに３回のワークショップのほか１１月に行うお元気サミットで広く市民の方へ課題の共有をし、パンフレット案や啓発に対する意見をもらう。
　９月６日に第１回目のワークショップを行ったので、その報告も簡単にしたい。啓発パンフレットづくり検討会という名称で、第１層協議体の委員のほか、第２層コーディネーターから声をかけた地域住民の参加者や、地域の金融機関、老人クラブ、社協及び社協の実習生にも参加してもらい、約４０名が集まってワークショップを行った。ワークショップでは、この課題に取組む経緯を説明し、課題を共有した上でいままで話し合ってきたことを伝えた。話を聞いて感じたことや、疑問に思うこと、さらにこの課題を誰にどのように伝えればいいのかなどをグループ毎に話し合った。第２回目のワークショップは啓発パンフレット案の内容と啓発方法の検討を行う予定で、来月８日土曜日の午後に予定している。
（高良委員長）
　本学の学生も参加して、とても楽しかったと言っていた。
　参加した村越委員より意見を伺いたい。
（村越委員）
　参加者の中には、自分よりも年上の方が一生懸命で、色々な意見が出た。

（高良委員長）
武田委員は参加していかがか。
（武田委員）
それぞれの介護体験の中からお金に絡んだ経験談も伺えた。
（高良委員長）
実体験も踏まえての話し合いになったそうだが、協議体で色々な方から得られた実際のお金に関する困りごとに焦点化して課題を見つけて、対応していくのは大変だと思う。そんな中で東京ホームタウンプロジェクトを活用し、住民の方と一緒に話し合っていくことはとてもいい対応だと思う。話し合う場が啓発の場となり、そこからどんどん広がっていく効果もあると思う。
東京ホームタウンプロジェクト関係者で、何か補足があったら発言してほしい。
（東京ホームタウンプロジェクト関係者）
（東京ホームタウンプロジェクトの課題解決化プログラムが地域課題にどのようにかかわるか説明。）
（高良委員長）
話を伺うと福祉の世界とビジネスの業界とはまた違う視点が入っていて、いろいろな視点から検討できるのはとても重要なことだと思うので、引き続きこちらを進めていってほしい。

⑥　「応援マップの作製について」
（事務局）
応援マップの作成について、８月末現在の情報をもとにマップを作成する。１２月末納品予定で４，０００部を作成する。
（高良委員長）
応援マップは継続的に作成しており、年々掲載場所が増えている。それだけ生活支援コーディネーターが地域の社会資源をしっかり把握して、立ち上げのサポートをしているからだと思う。これについて希望や検討事項を連絡会で話し合ったりしているのか。
（事務局）
現在、データを集めている段階で、まだ内容に関して話し合っていない。
今年は４包括１枚の地図を作成する。
（高良委員長）
応援マップの作り方については使いやすいものになるよう議論いただきたい。
では、これで議題の報告事項は終わりになるが、何か補足はあるか。

３　検討事項
令和４年１月から６月までの個別課題抽出中間報告を受けての個別課題について
（高良委員長）
次、検討事項に入っていきたい。ここまでの話にあったようにお金に関する困りごとにフォーカスして検討を重ね、実際に対応しているがまだまだ色々な課題がいっぱいある。地域の個別課題から対応しなければいけない課題について明確にすることが本日の目標になる。
まずは資料４の令和４年１月から６月までの個別課題の抽出の中間報告について報告をしていただきたい。

（事務局）
資料４参照。
（高良委員長）
確認させてほしい。これは大分類が「社会参加」「移動支援」というグラフで、例えば大分類の「生活支援」の中分類別として「通いの場」、「見守り」、「家事支援」とあるが、この中分類別の項目は大分類の「社会参加」も「情報」も同じだと考えて良いか。
（事務局）
同じである。
（高良委員長）
承知した。いろいろな取り方があるが、通常大分類別の中で中分類別の項目は、それぞれ大分類別の項目によって分かれるものは違いがあると考えられる。今後の課題抽出する際には中分類別の項目を変えていく必要が出てくると思う。
この情報はそれぞれ個別課題という表示がされているが、リソースは主にどこから出ているのか。また、各地域包括支援センターの総合相談の結果から得られた情報であるという理解でよろしか。
まずこちらの資料について質問等ある方はお願いしたい。
なければ、各地域包括支援センターの方も納得の結果になっているか。
では、この資料４の個別課題抽出中間まとめで全域大分類別の「生活支援」に関しての項目が多く、二番に「情報」三番目「社会参加」が多いという結果より「生活支援」に注目していく必要があると思われる。
さて、それでは個別課題抽出シートに添って見ていくが、協議体として検討していく必要があると考えられるものを候補として幾つか出していき、すぐに対応できれば検討していくというような、対応の仕分を行っていきたい。次の協議体でしっかりと課題として合意形成できるように、本日は前準備的なことが出来ればと考えている。
それでは、個別課題抽出シート「生活支援―家事援助」の上からご覧いただきたい。この記入者はどこの包括支援センターの方か教えてほしい。
（金子氏）
各包括でシートを作成している。このシートはひがし包括支援センターの職員から集めた情報である。
（高良委員長）
本日の協議体にいない方の相談内容もあるようだが、大体の意図は分っているという理解でよろしいか。
では、最初から確認していきたい。番号１番、老々介護。調理が十分できないので、ヘルパー派遣の提案で、臨機応変に対応してもらえると良いというのはどういうことか。これはあくまで介護保険の公的サービス内での対応が可能な案件という理解でよろしいか。高橋氏がいるひがし包括支援センターの方に伺いたい。
（金子氏）
恐らく結果的には御夫妻の合計２時間の介護保険サービスで対応して賄えたので、今後も臨機応変に対応してもらえると良いという事だと思われる。また、介護保険サービスでは対応できない支援を臨機応変に対応できる仕組みがあるといいということだと思われる。
（高良委員長）
この臨機応変というキーワードはどこでも出てくるニーズだと思うが、これをどこ

まで追求するかは非常に難しい。一応臨機応変というキーワードを１個置いておきたい。
　２番目は怪我をした方が介護保険の認定申請をしたがすぐには結果が出ないため、介護保険サービスを使う事ができないまま、自費サービスを使っているうちに怪我が治ったということなのか。
　これもひがし包括支援センターの相談か。この意図を教えてほしい。
（金子氏）
　これは介護申請をして結果が出るまで約１か月程の期間がかかるため、暫定という方法を取る場合もあるが、このケースは暫定の方法についての説明をしなかった。また他の方法として、小金井市に総合事業の制度があるが、介護認定の非該当を受けなければいけないという運用があるため、もう少し使い勝手のよい制度がないかと考える。
（高良委員長）
　確かに、これも迅速な対応が必要になってくると思う。これに対し運用上での対応として市の考えは何かあるか。
　困っていることに対して全部の解決するのは出来ないと思われるが、総合事業の制度の運用で融通が利くのであれば、市として対応の検討をしていただきたい。
　次の３番、夫の家事負担軽減も含め、家事援助の導入や妻に対するアプローチ方法の検討、配食の内容に幅があるといい。これは他にもあったと思うが配食サービスが不味いと書いてあった。いろいろな配食の内容があるほうが良いという意図でよろしいか。
（金子氏）
　その通り。同じものを出しても人によって全然反応が違うので難しい。
（高良委員長）
　これに関してはできる限り選択肢を増やしていくことが必要になる。配食サービスのみならず、食事に関しては様々なサービスがあるので、そういったものを活用できるように情報提供していくことで対応をお願いするしかない気がする。
　では、次は臨機応変、迅速な対応の必要がある困りごとと同じと考える。
（金子氏）
　いざ困っているときに即対応ができない。
（高良委員長）
　先ほど一番最初に平岡課長が紹介していただいたまごころサポートの活用であったり、民間のサービスの活用を入れざるを得ないと考える。
　でも、ここで必ず確認しておかなければいけないのは、民間サービスを使いたいが費用負担が高いため我慢して使わないとか、公的サービスはただだから、１割負担だから使いたいと考える方が多い。
　だからといってできる限り公的サービスだけを活用していこうとすると、回っていかなくなるので、費用面や色々な意味での意識変革の啓発が必要だと考える。色々な社会資源は必要であれば活用し、費用負担が増す場合でも選択肢に含めて考えてもらうようにしっかり伝えていきたい。また、忘れてはいけないのは経済的に余裕がなく費用負担が高いサービスを活用できない方もいる。その場合は費用負担の補助的なものをどうしていくのかという視点を考えていく必要がある。経済的に余裕のある方に関してはまごころサポートや、他の民間サービスを使うことで、臨機応変、迅速な対応として解決ができる確率が高いので、ぜひ民間サービスの活用の必要性を案内して

いけるといい。
　では、次、５番は男性の〇〇教室といった集いの場があるといい。
（金子氏）
　これは実際に地域の方から声をいただいたのだが、その家庭は奥様のほうが体が虚弱になり、夫が家事の負担をしている。これまで家事をやって来なかったのでなかなか上手にこなせない。ならば、〇〇教室というような形で男性も地域に出て、家事のノウハウも身につけられる居場所はないかという相談があった。
（高良委員長）
　多分１５番も同じだと思う。これは多分どこでもあることだと思う。徐々に年代が変わって若い方たちが高齢になる頃はあまり大きな問題ではないかもしれないが、今はまだ大きな問題になるという気がする。他の包括の方も同じような話はあると思うが、そういう男性に関しての居場所や、家事に関しての事前の予防策的なものも含めて活動していく必要がある話についていかがか。
（杉山氏）
　ここには載ってないが、最近妻を亡くして、寂しくて仕方ないと夫が泣きながら相談に来た。その方は集合住宅に住んでおり、同じ集合住宅の通いの場を案内したが、やはり行くと寂しくなって泣いてしまうとのこと。また、女性が多いため入りづらいと相談があった。
（高良委員長）
　そういう意味では男性ばかりが集まれる場所のニーズもあるし、かつ、これは男性に限らないが配偶者を亡くされた方のグリーフケアの必要性や、そのために集まれる場所のニーズがあるのかもしれない。
　男性のこういったものに関して吉田委員のところはいかがか。
（吉田氏）
　１５番がみなみ包括の案件だが、やはり妻を亡くした９０歳の男性で、ごみの出し方、ごみ券（シール）の購入方法も分からないため、気づいた時には家の中に捨てられない物が多くなって、ごみ屋敷になっていたという話だった。普段からの啓発も必要なのだが９０歳の男性に啓発してもなかなか難しいと考える。また、以前に地域で活動する場所はないかといって９０歳の男性が包括に相談に来たので、サロンを紹介したところ、サロンを通して朝の体操に通い始め、老人会に入って生き生きと活動している男性もいる。生活に対しての捉え方や地域に入っていく捉え方も個人差があるが、やはり押しなべて男性の生活力が弱いところを捉えて、事前にそういった独りになったときの備えに対する啓発も必要だと感じた。
（高良委員長）
　１２番も関連した内容でよろしいか。
（吉田氏）
　貫井住宅の高齢化が進んでいる場所での話だが、やはり皆さん頑固になっていて、生活面でサービスを入れて対応しようと勧めてもなかなか素直に受け入れてくれない。衛生面にこだわっておらず年金生活で支出を抑えたいという本人の希望もあり、支援する側の思いと本人の希望にギャップがある。本当に支援が必要になる時に本人の価値観が我々が支援したいことと乖離があることが悩みどころである。これは他の包括でもそうだが、気づいたときにはもう遅いと感じるのではないかなと思う。
（高良委員長）
　早めの支援が必要ということか。

（松村氏）
　妻が先に施設へ入所され、自宅に１人取り残された夫がひきこもりになり、体力が低下したという方がいる。また、自分が支援している９０歳の男性は、ＡＤＬは自立しているが家事能力が全くないため、妻が入院後は娘２人が曜日替わりでサポートしている状況で、配食も嫌いだという。本当に早めの対応が大事だなと感じた。
　また、この意識改革は男性に対してだけではなく、妻や娘に対しても重要だと思う。男性のための介護者サポーター養成講座が始まり、そのチラシを地域の活動場所に持っていき配布しようとしたところ、その大半が女性である参加者の反応は、「うちの主人は駄目だわ、行かない」といった感じで、妻が既にあきらめているようだった。チラシを受け取ってさえもらえなかった。
　一方で、公民館緑分館で開催される男性だけの料理サークルがあるが、参加者はすごく楽しいのと大変なのと両方あって、やってみたことで妻に対する感謝の気持ちが芽生えて本当によかった、これからの生活に気づきが持てたと言っていた。まだ若くお元気なうちに楽しい集まりを通して、生活力を身につけられる活動の場を考えていかなければと思った。初めから駄目だと決めつけずに、楽しい集まりを考えていきたい。
（高良委員長）
　この辺は今後に対応が必要だと思われる。
　その次の買物に行けない。これは家族がネットスーパーを頼んで、買った品物は玄関までは来るが、台所まで運ぶことが大変というもの。このような困りごとは他にもう一個あったが、これはどちらの圏域か。
（杉山氏）
　記入者欄が空欄なのは全てにし包括センターの困りごとになる。
（高良委員長）
　では、にし包括の方とみなみ包括の方に伺うがどんな感じなのか。これは玄関に宅配された荷物を置いてくれても、そこから冷蔵庫に入れるのが難しいということか。
（吉田氏）
　１０番の困りごとに関してはちょうど商工会が東京都モデル事業で買物困難者の支援のサービス改善の為のアンケートを取っている中で出た話だ。高齢化が進んでいて、宅配された品物は玄関先に届くが、重い品物を玄関先から家の中に入れなければいけない。実際の買物難民のお届けのサービスも玄関先までの配達で、なかなかそこの困りごとが解決されるサービスにはならなかった。やはり玄関から台所まで買い物したものを運び込む、場合によっては冷蔵庫に収納するまでのサービスが欲しいということになる。介護保険を利用したヘルパーサービスを利用する中で手伝ってもらえれば話は別だが、そこに至らない高齢者で腕力などが落ちてしまった場合はこういうサービスの必要性があるということで報告を上げた。
（高良委員長）
　杉山委員、どうぞ。
（杉山氏）
　７番についてはネットスーパーを頼むと、どうしても買った物が段ボールで届く。家族がよく頼む物は、自分で買いに行けないお米とか飲料水とか、重たくてかさばる物なので、玄関に置きっ放しになっている事が多い。ヘルパーを利用している方は、ヘルパーに手伝って貰える可能性もあるが、ヘルパーの利用がない方は自分で運ぶしかないので、その都度使うときに１個１個運んだりしている。

（高良委員長）
生協とかの宅配の業者に荷物の配達の際に、玄関先まででではなく家の中まで入れてほしい旨を、配達してくれる個々の人にお願いするのは難しいと考える。ただ、ある程度解決方法も見えてくるような課題であるので、検討していけば対応できそうな気がする。ボランティアを使うみたいな具体的な検討も考えられるので、この課題も検討課題として上げておいたほうがいい。
次、買物に行けない、これも一緒だと思われる。
床と水回りの掃除を手伝ってもらうのも難しい。これもシルバー人材センターや民間の自費サービスで対応したということか。お困りごとの対応として自費サービスとしてシルバー人材センターや民間のサービスで対応できるものと、できないものを少し考えてみたほうがいいと思われる。
１１番、低額で気軽に頼める単発の家事援助、これもまた同じで、安くて、単発でかつ臨機応変に利用できるサービスがいい。ちょいボランティアや近所づきあいからの支えがあったらよいという話になる。
１４番、これは先ほどと同じで、対応としては各種の弁当やデリバリー。１５番がさっきと同様のもので、１６番は１５番の対応と支援拒否対応のケース共有。これはごみ屋敷化の案件。
１７番はよその買物をする、これも家事援助として自費サービスを利用していただきたい。
買物に行けない、調理ができない、これも配食サービスはもっとおいしいものがいいという案件。
ここの中でまず１つ確認できたのは、やはり男性のお独りになられた方が家事能力的にいろいろ困った状況がある。その困りごとにどう対応していくかできる限り早めに、それこそリタイヤしたその頃から考えていく必要があるとともに、妻や娘の意識変革を含めて啓発していく必要があるということ。これは今後検討する必要性があると考えられる１つの課題として上げられる。
もう一つは、臨機応変かつ、迅速で、安くサービスを利用できる何らかの方法について。ただ、この場合民間のサービスの内容の中で、どこまで協議体として考えていくかの精査は絶対に必要になると思うが、検討していく必要はあるのだろうと考える。
そして３点目としては、買物の支援はあるが、部分的な玄関から台所まで買った物を持っていくことができないような困りごとに対して、実際の生活を考えた際にもう少し１歩踏み込んだサービスが必要になるものにどういう対応を考えていくか、明確になったのではないかなという気がする。
では、次にちょっとした困りごとで。１番、一時的なサービスというか、支援なのだと思う。そして２番目、これもちょっと買いに行ってほしいという支援で、市販の湿布を買って来てほしいというもの。
３番目、これはペットのグルーミングに連れて行けないというもの。これも介護保険の公的サービスでは対応できないため、柔軟な対応が必要である。どこまで課題としてこの協議体で話し合っていくのかの議論になるが、インターネットで検索するとたくさん情報が出てくる。
（金子氏）
「３番目」は介護保険事業者の方があまりにかわいそうで見ていられないと言って、業務外の好意で対応してもらい、料金は自費になった。

（高良委員長）
犬が好きな方には、本来の何らかの仕組みが必要だと考えられるが、これはペットの世話ということで、どういうふうに考えるかだがなかなか合意形成は難しいところである。
４番目は一時的な支援でごみ出しの手伝い。
５番目、これは犬の散歩。これもペットシッターなど散歩をしてくれる方がいる。
６番目、住民票と非課税証明書を取りに行けない。これは一般の方にお願いするのは難しため行政書士に依頼するなどが考えられる。
（石塚委員）
あとは郵送請求ができる。
（高良委員長）
確かにそれは重要な情報提供だと思う。そういう情報提供はしっかりと伝える状況ができれば解決すると考える。
（石塚委員）
日中に独居の方には土日、休日で一緒に窓口に行って支援することもできる。
（高良委員長）
７番、この困りごとはシルバー人材センターで対応できないか。これはどなたの案件か。
（杉山氏）
シルバー人材センターでも対応してくれるが、季節によって大分混雑しており、申込みしてから何か月待ちという実態がある。この方は早急の対応が必要だった。
（高良委員長）
早急な対応をお願いするにはまごころサポートは難しいのか。
（石塚氏）
どこまで大きい木なのかにもよるが、まごころサポートでもお庭の手入れも業務として行っている。
（高良委員長）
では、ぜひ確認をお願いしたい。
８番これも短時間の一時的な支援で、９番はワクチン予約、ワクチンの問診票が書けない。こういうのは多くあるような気がする。これに関しては何らかの仕組みをつくらないと、個別対応をするのは大変になると思われるが、ニーズはどのくらいあるのか。個別対応でやっても大丈夫なぐらいのニーズなのか。
（松村氏）
このワクチン接種の予約ができないという相談は、飛び込みの来所が結構あり大変だった。小金井市は医師会を中心に頑張っていて、かかりつけの医療機関での予約を勧めているが、窓口にいきなり来る方はかかりつけもないようなちょっと困難ケースの方が多い印象である。対応としてはお持ちのガラケーで、一緒に電話を何回もかけるというようなことをしていた。
（高良委員長）
ワクチンに関してだけいえば、今後もずっと続くことでもないと思われる。特にそういう方は別のニーズもある可能性が考えられるので、早めにつながるという意味においても個別に来られるのはいいことだと思う。一方でその次の１１番にあるような、書類関連で書き方等が分からずに対応ができないままになっているとか、実はやらなければ自分にとって不利益になるのに、手続きできない状況にある方に関しては

何らかの対応が必要なのだと考える。書類に関しては１個、課題解決の候補として上げておいたほうがいい気がする。今のところ４つ候補として上がっている。
　それでは、時間が来たので途中だが本日は「生活支援」の「ちょっとした手伝い」の１１番までとして、この後についてはまた継続的に見ていければと思う。できたら今日上げられた４つの地域課題の候補に関して、この後の連絡会等の機会を使い、より中身についてそれぞれの経験の中から意見を上げていただき、継続して話し合ってほしい。
　それと同時に４つ上げた課題に関連して既に対応している社会資源があれば、それも調べてもらえると、この後の議論がスムーズに進むのではないかと思う。
　ここまでのところで何か意見や質問があったらお願いしたい。
（尾崎委員）
　先ほどペットのことで、小金井市に動物愛護推進委員という東京都の動物関係の役割を持っている者が多分５～６名いると思う。環境政策課が担当していると思うが、私も推進委員である。高齢者とペットの問題は多くなっているので、何かあれば御相談いただきたい。また、ここに書いてある犬友は結構助け合いをしてくれる。１２～１３年前にファシリテーターの養成講座で、定年後の男性の社会参加が課題に出て、犬なら人とコミュニケーションが自然に取れるから男性にとってはいいという話が出た。今、コロナになって高齢の男性の飼い主が非常に増えていて、小金井公園もそうだが、野川の方も大分増えていて、自然にコミュニケーションが取れる。ペットのことであれば愛護推進委員に声をかけていただければ、福祉局ともつながっているので、何か手だてがあるかもしれない。また飼っている犬を手放す時もぜひ声をかけてみてほしい。
（高良委員長）
　貴重な情報を教えていただきありがたい。いろいろな仕組みや資格がありながらも、みんなが知っているわけではない。私も犬が好きだが知らなかった。なのでこういう情報を共有して、高齢者の方々に広げるのはとても大切だと思う。
　それでは、全体を通してほかに何か意見等があったらお願いしたい。

４　その他
　　次回協議体の開催予定
　　資料について

５　閉会